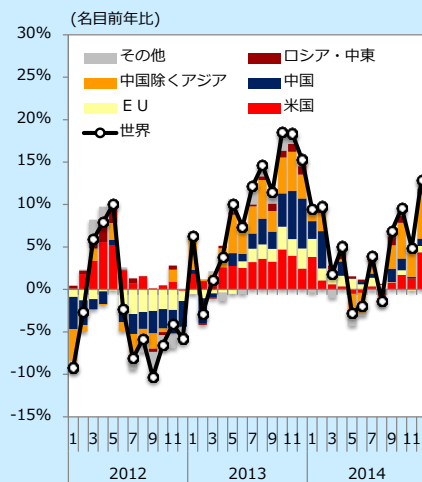


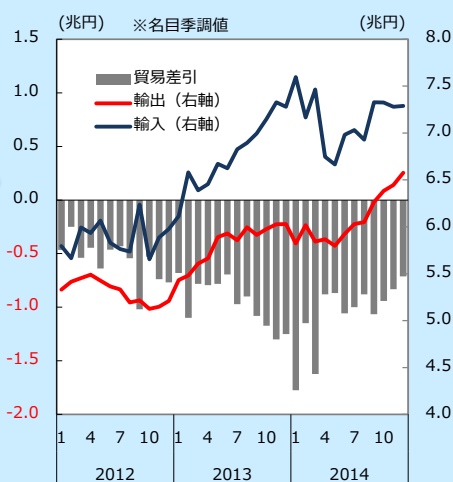
## 日本：貿易統計（2014年12月）

MRI Daily Economic Points  
January 26, 2015

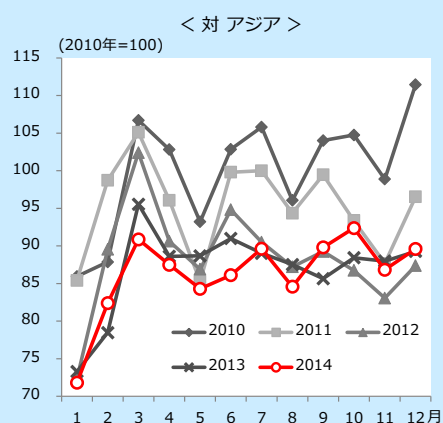
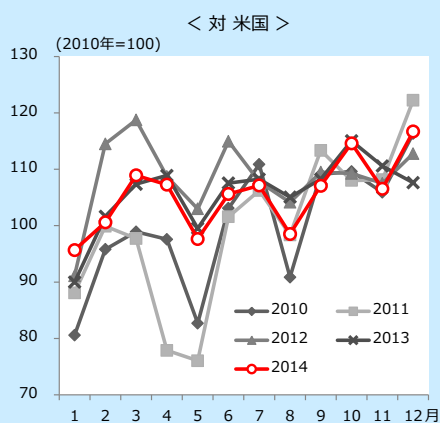
## 地域別輸出



## 輸出入と収支



## 地域別輸出数量指数



資料：財務省「貿易統計」

## 評価ポイント

## 2014年および2014年12月の結果

- 2014年の貿易統計は、輸出が前年比+4.8%、輸入が同+5.7%となり、貿易収支は▲12.8兆円と4年連続の赤字。暦年での赤字額は過去最大を更新。
- 12月の貿易統計は、輸出が前年比+12.9%となり、1年ぶりの2桁増となった。輸入は同+1.9%と2ヶ月ぶりの増加。貿易収支は、▲6,607億円となり、季調値では▲7,121億円と前月(▲8,325億円)から赤字幅が縮小した。
- 輸出の高い伸びの背景として、価格面では、10月以降の一段の円安進行により、輸出の価格指数が前年比+8.7%と大幅に上昇した。数量面でも、同+3.9%と堅調な伸びをみせ、特に米国向け輸出数量が、原油安による自動車販売の好調を背景に同+8.4%と高い伸びとなった。
- アジア向け輸出数量は依然として低調である。NIEs、ASEAN向け輸出は堅調も、中国向け輸出が不振である。前年比▲6.6%と前月に続き大幅なマイナスとなった。住宅価格の下落などによる中国経済の減速が、日本からの輸出にも波及しているとみられる。
- 日銀の実質輸出入によると、12月の輸出は季調済前月比+3.3%と2ヶ月振りの増加、輸入は同+1.4%と2ヶ月連続の増加となった。14年10-12月の結果を基に、外需のGDPへの寄与度を計算すると、実質前期比+0.3%p程度のプラス寄与が予想される(7-9月は同+0.1%p)。

## 基調判断と今後の流れ

- 輸出の先行きは、米国や中国除くアジア向けを中心に緩やかな回復を見込む。世界的な原油安は、ロシアなど資源国経済には下振れ要因となるものの、米国の自動車販売には追い風となるほか、アジア新興国を中心に、燃料コストの下落やインフレ圧力の低下により恩恵を受ける国も多いことが背景にある。
- 一方、輸入の先行きは、原油安の影響により金額ベースでは減少が予想される。輸入の減少は、貿易赤字縮小にも寄与し、原油価格が50ドル/バレル程度の水準で推移すれば、年間▲7兆円程度の赤字縮小効果が見込まれる。